

武藤 真郷

Masato Muto

内閣官房 内閣人事局 参事官

唯一無二の正解がない世界で

これまでのキャリアをふりかえって

中央官庁の仕事の中核をなす各種制度の企画立案。そこには唯一無二の正解はありません。

解の公式もないし、解なし以上!とすることももちろん許されません。

その中で「最適解」を模索し続けて早や27年。晴れの日も雨の日もありましたが、振り返って思うのは、

最適解を導き実現するためには、掘って立つ「理念」、多様なステークホルダー間の「調整」、

そして、制度の向こう側にいる生身の「人間への関心」、この3点が不可欠だということです。

これまで誰も経験したことのない人口減少社会。

行政に求められるものも大きく変わってくるでしょう。

いたずらに危機的に捉えるのではなく、むしろ未曾有のチャンスが

転がっていると考え、新たな社会基盤作りを目指す意欲に燃えた

皆さんと共に仕事ができる日を楽しみにしています。



■2016～現在 行政評価局政策評価課長 内閣官房内閣人事局内閣参事官(行政組織総括)

政策評価制度の所管課長として、EBPM(Evidence Based Policy Making)への対応に腐心した後、昨夏から現職に。テロ・サイバー対策、観光立国、治安・海上保安、震災復興、所有者不明土地対策、在外公館の整備、金融行政の再編、といった内閣の重要課題に対応すべく、機構定員査定全体の取りまとめを担っています。

■2014～2015 内閣官房内閣総務官室内閣参事官(総括)

官邸に直結した独特の緊張感がある職場です。毎週の閣議、内閣官房内の人事といった恒常業務のほか、組閣・改造、国会同意人事、オリパラ大臣増員を盛り込んだ内閣法改正、官邸屋上へのドローン落下などなど降ってくる難題をこなす日々でした。官邸地下のオペレーションルームで故郷熊本の惨状を見た衝撃は忘れられません。

■2012～2013 行政管理局管理官(内閣・内閣府・宮内庁・総務省・財務省・金融庁担当)

ここから管理職時代。慣れ親しんだ機構定員査定業務ですが、今度はプレイヤーではなくマネージャー。任せるべきところは任せ、自ら責任をもって判断するという立場になりました。戸惑いながらも優秀な部下職員に支えられ、内閣人事局への移行、次期定員合理化計画の策定に携わりました。

■2010～2011 内閣府特命担当大臣(行政刷新、公務員制度改革等担当)秘書官

民主党政権下で大臣秘書官を務めました。政権交代の熱気、その後の混乱、そして東日本大震災の発災...早朝からときには明け方まで、大臣を補佐し支えることのみを考え、あっという間に過ぎた2年間でした。政治のダイナミズムを感じるとともに、官の役割・存在意義についてもあらためて考えさせられました。

■2005～2009 人事・恩給局企画官 行政管理局企画官

企画官時代。そのうちの3年ほど、現在の人事評価制度の企画立案・導入に携わりました。各省庁の人事担当者、職員団体との厳しい折衝・調整を経て、理解を得ながら進めたことが、制度の定着につながっていると思います。当時議論を交わした人々とのつながりは今でも大きな財産です。

■1997～2004 行政管理局副管理官(旧通産省・科技厅・運輸省担当) 道路関係四公団民営化推進委員会事務局参事官補佐

課長補佐時代。省庁再編前後の通産省等の機構・定員査定を担当しました。まだ独身だったこともあり、よく働きよく飲みました。「道路四公団」には準備室立ち上げ時から関わりましたが、よくも悪くもハプニング続出。大抵のことには驚かなくなりました(笑)。

■1993～1996 行政管理局企画調整課係長

係長時代。当時パソコンは部屋に数台、もちろんメールもなく、書類はひたすらコピーして自ら配布するものでした。総理直轄の行政改革会議での省庁再編議論を毎回傍聴、熱い議論に感銘を受けました。資源エネルギー庁や厚生省(当時)へも出向し、石油製品輸入自由化、要保護児童・児童虐待対策といった全く違う行政分野での仕事も経験させてもらいました。

■1991～1992 内閣総理大臣官房総務課(旧総理府・総務庁の合同採用)

係員時代。官房総務課に配属され、各省庁との書類のやりとり、国会業務や文書・法令審査といった役人の基本動作を叩きこまれました。永年勤続表彰の決裁が回ってきて、「ああ、おれが生まれる前から働いている人が沢山いるんだ」と妙に感動したことを思い出しますが、今や自分もそういう年代に...



with くまもん@県人会